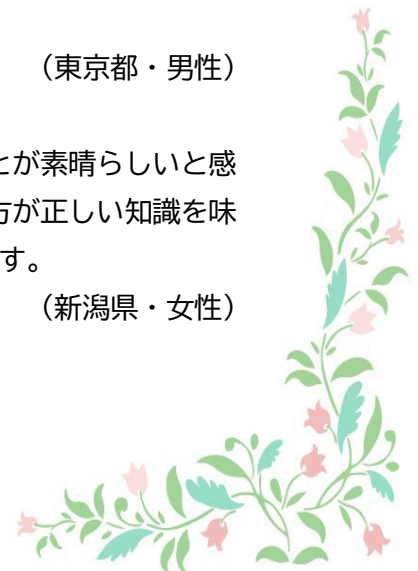
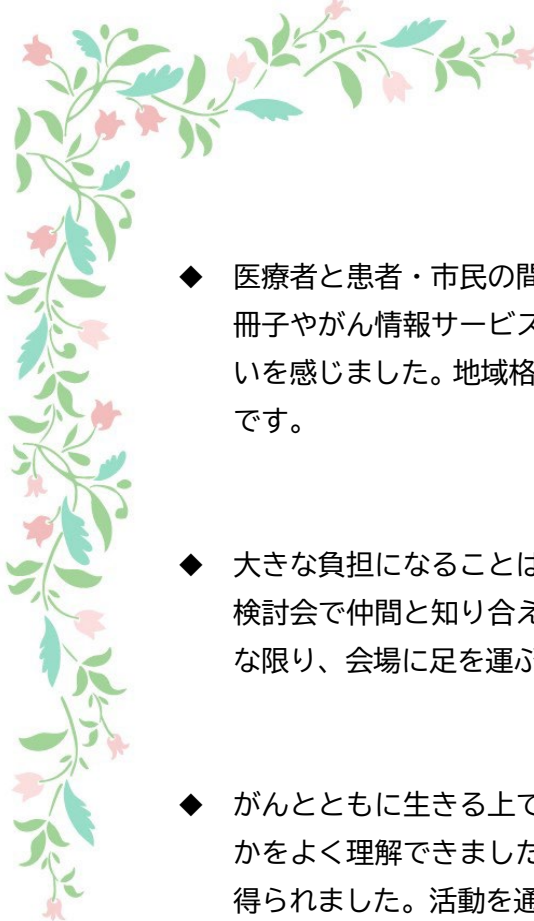




メンバー経験者からの声

- ◆ 国立がん研究センターがさまざまな情報を発信し、その内容に患者自身が参画し、市民の多くの意見が取り入れられていることが、活動を通してわかりました。「正しいがん情報をがん患者に届ける」ことにパネルとして関わることができ、喜びを感じています。
(群馬県・女性)
- ◆ 信憑性に不安が残るソーシャルメディア上の情報とは異なり、信頼できる医療関係者とボランティア精神あふれる患者当事者の声は真実そのものです。活動を通じてがんのみならず、マイノリティーやダイバーシティーも私なりに解釈できるようになりました。
(埼玉県・男性)
- ◆ パネル経験者から勧められて応募しました。新型コロナウイルス感染症の影響でオンラインでの活動が続き、4年目に初めて対面での検討会に参加しましたが、皆さん多方面で活躍されていて、熱量の高さを感じました。がんの冊子の原稿チェックも行い、「だれにでもわかりやすく」という作成者側の想いが伝わりました。
(埼玉県・女性)
- ◆ パネルの一員になって、活動意欲が増し、地域の方に理解を広めたいという気持ちが強くなりました。がんで失ったものもありますが、病気が苦しくなっても辛いときでも支え合える仲間や絆ができたことは、人生でかけがえのない宝です。
(東京都・男性)
- ◆ がんについてもっと知識を得たいと思い、応募しました。がん対策の取り組みに少しでも携われているという意識も芽生え、自発的な行動もとれるようになりました。オンライン参加中心だったため、遠方の方とも繋がることができました。パネルメンバーは活動的な方が多いので、得られるものも多かったです。同じ悩みや気持ちを持っている人と繋がることができました。
(東京都・男性)
- ◆ 医療者、患者家族、支援者が関わり、信頼できる情報を発信できることが素晴らしいと感じます。現在、支援者の立場で仕事をしていますが、一人でも多くの方が正しい知識を味方に病気と向き合えるよう、これからも案内し続けていこうと思います。
(新潟県・女性)



- 
- ◆ 医療者と患者・市民の間を埋める大切な活動だと実感しました。新しく作成するがんの冊子やがん情報サービスのウェブページに、パネルの声が反映されていることにやりがいを感じました。地域格差のない情報提供をするために「患者・市民パネルの声」は必要です。

(長野県・女性)

- ◆ 大きな負担になることはないため、何でもチャレンジすると楽しめます。一番の収穫は検討会で仲間と知り合えたことで、その後も情報交換を続けています。検討会へは可能な限り、会場に足を運ぶことをお勧めします。

(愛知県・男性)

- ◆ がんとともに生きる上で何が必要で、どのようにアクションを起こさなければならないかをよく理解できました。科学的根拠に基づくがん情報を確実に届けることの大切さも得られました。活動を通じて、自分自身も成長できます。

(兵庫県・男性)

- ◆ 情報の集め方に苦労した私が、がん情報サービスにたどり着いたのががんになって9年目のことでした。患者や支援者たちが、医療者と真剣に話し合う場が「患者・市民パネル」の活動です。この活動に参加できたことに感謝しています。これからも地域活動の中で応援していきます。

(山口県・女性)

- ◆ がん情報サービスという、正確で信頼性の高い情報サイトやリーフレット等の作成に、専門家の方々と一緒に関わったことは貴重な経験でした。検討会では全国の方たちと交流することができ、たくさんの仲間とともに支えあう場となりました。「患者・市民パネル」を卒業しても、正しい情報をもとに地域で活動を続けていきたいです。

(香川県・女性)

